NPO法人 災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

災害救助犬の認定基準統一に関する見解

同一組織での認定審査会の開催ついて、犬に関わる見解は人によってさまざまで、特に訓練方法や、目指す作業精度は災害救助犬の育成者それぞれに少しずつ異なります。審査会は組織が活動するための一定基準であり、会員の訓練指針となっている点はメリットと考えています。

一方、デメリットについては、災害救助犬についての見解が似通っている育成者同士で組織が構成されれば、運営の在り方が偏った方向性を持ち、本来の目的、目標を見失いかねないことになります。そのためには、謙虚に広く意見を聞き、災害救助犬についてのあらゆる情報の受信、発信に積極的に努めることが必要だと思っています。

そのうえで大きな目標としての認定審査の統一基準作りに関して、私たちは統一基準に向けてあらゆる手段、方法を否定するものではありません。各団体が統一基準の必要性を認め、寛容さで歩み寄りが必要であり、災害現場で活動することを考えれば、まずは協力体制と認定について何かしらの合意事項を決めるための話し合い、交流の場を作れるように提案します。

しかし、実現するためには行動が伴わなければならず、常にその目標を共有し続け、寛容な姿勢で交流、あらゆる機会に協力をする柔軟な姿勢も必要と感じます。

現在各団体において開催されている認定会を統一することは現実的ではなく、現行維持して捜索活動に必要な最低限の能力を図るために存立させておくべきと考えている。そのうえで話し合いができる環境を整え、合同訓練をする中で能力の標準化を感じるようになるはずである。

そのような意識の共有がないままに統一基準を先行することは、新しい行事が生まれるだけで連携への集約には障害となる。真の連携、統一基準は認識の共有からスタートすべきと考えている。

私たち NPO 法人災害救助犬ネットワークの認定犬のレベルについては、すべてが災害現場で必ず活動成果をあげられるとは考えていませんが、認定している犬については派遣できるレベルに達しているとは思います。その根拠、特性として、作業意欲と自主性に重点をおいて審査されていることと捜索シミュレーションの場所を特定しない審査とそれに合わせる日常訓練で、より実践的な活動ができる災害救助犬が育成できていると思っています。

また、その能力維持の方策は、犬に要求する作業が一定レベルに達したとしても、それを維持するために日常的な訓練は必要です。訓練会を年数回開催して、認定犬は参加を義務づけるなど日常訓練と併せて、組織として作業能力がチェックできるようにしています。認定審査会で合格した犬に一定の認定期間を設けていることで犬の能力維持とともに、会員の育成意欲向上につながるように努めています。

認定審査の合格基準のポイントとして、意欲的、能動的、かつ持続性のある作業か、性格的な問題点はないか、服従性は高いか、告知動作の確実性、指導手と犬の関係性などを総合的に判断しつつ、どのような現場なのかを考えたうえで、出動犬を選択すれば、十分に結果を期待できる認定犬たちだと考えています。併せて、組織としての出動能力ではあらゆる地域の災害地に派遣できる体制整備も必要でありますが、指導手の育成、認定については道半ばで、犬の育成と合わせて重視して取り組んで行きます。

NPO 法人災害救助犬ネットワークの認定審査、訓練育成、出動部が連携して、育成者に対して、訓練に取り組んだ時からを出発点と捉え、基礎、日常訓練の重要性、必要性を伝えながら、実働へ向けた終わりのない訓練をしていくつもりです。

2007 年以来、行政、マスコミからの災害救助犬組織の認定統一に関する指摘、疑問、懐疑的な意見に対して、NPO 法人としての当会の見解を表明するものです。